

# 語順

## 語順

### 定番

①主語 ②述語（動詞） ③その他（時・場所）

**Es** **regnet** **morgen hier**

明日ここで雨が降る

### 強調

①強調する語 ②述語（動詞） ③主語

**Hier** **regnet** **es** **morgen**

ここで明日雨が降る

ドイツ語の語順は述語（動詞）を軸とし、主語がその前後にくれば、あとは融通が利くと言える。まず、述語（動詞）が2節目にくる。そして主語が1節目か3節目にくる。主語以外に強調したい部分があれば、1節目におき、主語が3節目にくる。

### 定番の語順▶

Es regnet morgen hier. **明日ここで雨が降る**

1 主語、2 述語、3 その他（時・場所）

### 場所を強調したい場合▶

Hier regnet es morgen.

### 時を強調したい場合▶

Morgen regnet es hier.

述語（動詞）が必ず2節目にきて、主語が1節目か3節目にくるのが原則。

また、動詞が1節目にくれば、疑問文か命令文になる。疑問詞があれば、動詞が平叙文と同じく2節目にくる。

## nicht の位置

否定の不定冠詞 *keine – keine – kein* は名詞のみに使い、常に名詞の前につくが、動詞、形容詞、冠詞等を否定するためには *nicht* を使う。

まず、何を否定するかが大事である。全文否定の場合は、*nicht* が1番最後にくる。部分否定の場合は、否定するものの前につく。

例▶ *Meine Tante kommt morgen nicht.*

全文否定    叔母は明日来ない

*Meine Tante kommt nicht morgen, sondern heute.*

部分否定    叔母が来るのは、明日ではなく、今日だ

否定されるのは全文ではなく、*morgen* のみ。

また、*nicht* を使うか、*kein* を使うかは、意味の大きな違いをもたらす。

例▶ *Ich trinke das Bier nicht.*    私はこのビールを飲まない

*nicht* は冠詞の *das* のみを否定するが、名詞の *Bier* を否定しない。

つまり、他のビールは飲むかもしれない。

*Ich trinke kein Bier.*    私はビールを飲まない

*kein* は名詞の *Bier* を否定し、ビールはそもそも飲まないという意味になる。

動詞と目的語の関係として、動詞と1番近い関係にある語が最後にくる。また、直接目的語（4格）が間接目的語（3格）より後にくる。分離動詞の接頭辞が文の最後にくるのも、こうした理由なのである。

例▶ *Ich kaufe dir ein Eis.*    私はきみにアイスを買う

*dir* は3格の間接目的語で、*Eis* は4格の直接目的語、後者が通常後ろにくるが、もし「きみに」と強調したいときは、*Ich kaufe das Eis dir (nicht ihm)* 「私はこのアイスをきみのために買う（彼のためではない）」という言い方もできる。

形容詞と冠詞が名詞の前につき、冠詞と形容詞と名詞がある場合は、冠詞・形容詞・名詞という順になる。前置詞も常に名詞の前につく。

### ▼チェック問題

次の語を挿入して文を完成させる場合、最も適切な箇所はどこか。

1－4から選び、その番号を選びなさい。

「mir」

Papa, kannst ( 1 ) du ( 2 ) zehn Euro ( 3 ) geben ( 4 ), bitte?

### ▼解 答

**2**

「パパ、10 ユーロをくれないか？」という文の中で、通常3格の間接目的語 **mir** は主語の後で、4格の直接目的語の **zehn Euro** の前にくる。